



歴史を紐解く大切さとこれからの土木

代表理事 山本 卓朗

一年間にわたり「明治 150 年企画特集」として寄稿を連載してきました。10 氏の方には、明治 150 年と無理に結びつけることなく、自由にお書き頂くようお願いしましたが、皆さんが現在取り組んでいる課題や周辺の話題などをごく自然に歴史・文化の変遷と結びながら語って頂きました。

- 自然と向き合い折り合いをつけてきた日本的生き方から急旋回した近代の歴史とくらべながら、自然災害や地方都市の衰退を語った三上靖彦氏。
- 江戸期から明治以降の土木と歴史や文化との関わりを「芸防国境地帯の今昔」を事例にして語った野村吉春氏。
- 「近代水道 100 年の歩み」を紐解きながら専門誌の役割を語った武田教秀氏。
- 近代化の中で世界トップクラスの長寿命国となったことに焦点を当てて、人生計画の有り様を語った廣谷彰彦氏。
- 郷里に残る大山神社と大山巖の歴史から明治維新の激動を語った和田恵氏。
- 蝋燭の時代から一気に電燈通信の時代に突入した電線設置のひずみを軽減すべく、無電柱化の長い歴史と努力を語った山岡和彦氏。
- 巨大化する災害の一方で、過去の災害経験を活かさない居住地や生産拠点の広がりや災害リスクの関わりを語った田中努氏。
- 産官学のトライアングルによる社会インフラ整備で近代化を急激に進めた時代から、今後の“民”を加えた公共サービスの時代への強い期待を語った駒田智久氏。
- 維新以降の急激な近代化からアジアを戦争の巻き込んだ末の敗戦と疲弊、一転して高度成長による回復から再び世界に後れを取っている現在まで、乱高下を繰り返してきた歴史を長い周期として分析し、今後の成長時代への期待を語った有岡正樹氏。
- 近代化の中で「世間」という日本独特の伝統的な価値観が優先される我が国での変革の難しさをわかり易く語った皆川勝氏。

執筆頂いた方々に感謝申し上げるとともに、皆様に改めてお読みいただければ幸いです。

今回のささやかな企画で改めて感じたのは、私たちが携わっている社会インフラ整備、防災、街づくりなどが歴史・文化・思想そして時代時代の国の政策などいかに影響されてきたかということです。そして日本の将来を考えた時に、その影響がかなり深刻な事態を招いたこともあるというマイナス面にも気付かされます。このように考えると、私たちがプロジェクトを考える時には、まずそれを取り巻く歴史的な経緯を調べ評価するところから入っていくのが好ましい姿といえるでしょう。

さて CNC 通信も 50 号を越えましたが、本明治 150 年特集を含め貴重なコンテンツが蓄積されてきました。これらを更に活用・PR しながら、未だに「世間」という狭い世界に留まっている土木と市民社会をつなぐ活動に繋がりたいと思います。